

おおま

No. 95
岬の光

平成29年11月1日発行

議会だより

新庁舎の基礎工事 (平成29年10月24日現在)



9月定例議会 主な内容

○平成29年第3回定例会

P 2

○平成28年度歳入歳出諸決算

P 3

○2議員が一般質問

P 4～5

○報告・編集後記

P 6

第3回 9月定例会

平成29年第3回定例会を9月8日開会し、9月14日閉会。
本会議に提案された報告4件、認定1件、議案3件、同意1件
はすべて原案のとおり認定、可決、同意しました。

平成29年度 補正予算

一般会計

歳入歳出それぞれ1億8873万円を追加し、予算総額46億1302万円とした。

歳入の主なるもの

- 固定資産税で現年課税分5825万円。
- 普通交付税1億2078万円。
- 繰越金で前年度剰余金2306万円。

歳出の主なるもの

- 公共用施設維持運営基金積立金2176万円。
- 地域福祉基金積立金1億3千万円。
- 予備費で財源調整し2162万円。

特別会計

歳入歳出それぞれ159万円を追加し、予算総額6億5256万円とした。

下水道事業 特別会計

歳入歳出それぞれ11万円を追加し、予算総額2億4854万円とした。

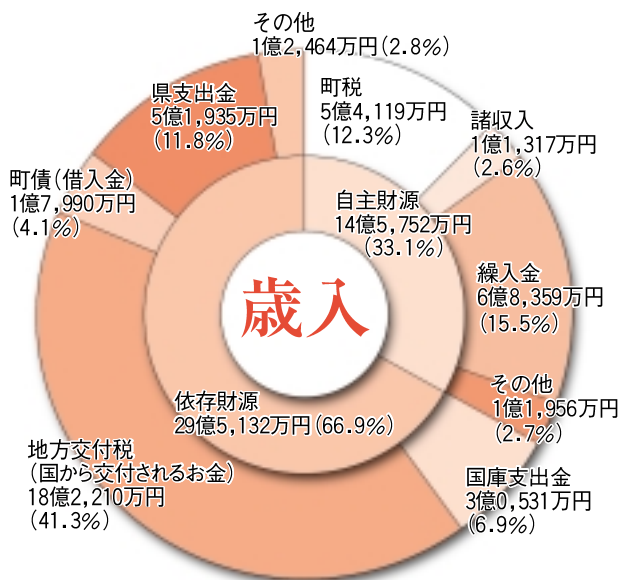


町民一人あたりの借金

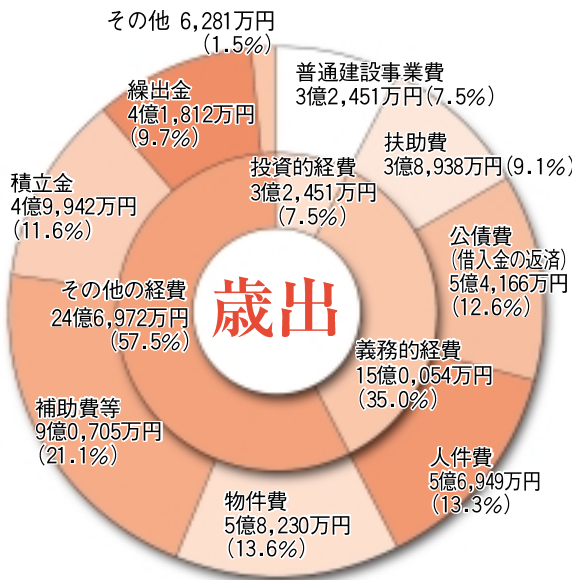
実質6万3千円



歳入 44億0,885万円



歳出(性質別) 42億9,478万円



一般会計の内訳

平成28年度 歳入・歳出諸決算

第3回 9月定例会

歳入・歳出諸決算審査特別委員会報告

平成28年度

歳入・歳出諸決算を



一般会計

収入済額44億885万円、支出済額42億9478万円で、歳入歳出差引残額1億1406万円、規定により基金繰入額8千万円とした。

国民健康保険特別会計

収入済額10億8448万円、支出済額10億5437万円で、歳入歳出差引残額3011万円、規定により基金繰入額2811万円とした。

後期高齢者医療特別会計

収入済額4538万円、支出済額4478万円で、歳入歳出差引残額59万円。

介護保険特別会計

収入済額5億8336万円、支出済額5億4417万円で、歳入歳出差引残額3919万円、基金繰入額3919万円。

下水道事業特別会計

収入済額、支出済額は同額の2億2774万円。

水道事業会計

収益的収入1億4840万円、収益的支出1億5639万円、資本的収入887万円、資本的支出8371万円で、収入額が支出額に不足する額7484万円は当年度分消費税資本的収支調整額124万円、当年度分損益勘定留保資金7359万円で補填した。

平成28年度 健全化判断比率

	平成28年度	早期健全化基準
実質赤字比率	△ 4.7%	15.0%
連結実質赤字比率	△ 10.5%	20.0%
実質公債費比率	15.2%	25.0%
将来負担比率	50.3%	350.0%

※△表示は黒字を表す

平成28年度 資金不足比率

	資金不足比率	経営健全化基準比率
大間町水道事業会計	0.0%	20.0%
大間町下水道事業特別会計	0.0%	20.0%

監査委員の意見書

一般会計では、実質収支1億1306万円の黒字、特別会計についても6990万円の黒字となっている。財政の健全化比率は良好であるものの財政力指数は0.245と低く、経済収支比率は80.2%と高く財政構造は硬直化している。収入については、収入未済額(総額6億1100万円)の主な理由は、第一次産業の不振、景気低迷、並びに納税意識の低下が主たる要因と考えられる。財政環境が一段と厳しさを増している中、公正、公平な負担と財源確保の観点から収入未済案件の実態を把握し引き続きその解消と新たな発生防止を図る必要がある。

町税収納対策として、市町村税滞納整理機構へ徴収依頼し収納率向上を図っているものの、特に国民健康保険特別会計については繰入額が多額となっており町財政を圧迫している。抜本的な改善が必要である。

歳出については、決算収支は黒字となっているが、前年度に引き続き弾力性に欠け厳しい状況下にある、又、不用額が多額であるのでより一層適切な運営に努めていただきたい。

予算の執行に当たっては、財政健全化への取組みを着実に進める一方で、職員一人一人がコスト意識を更に高め、厳正かつ的確な財務の執行に努めるとともに、透明性を確保し、町民に対し十分な説明責任を果たすよう留意されたい。

一般質問



岩泉 盛利 議員

質問
原発を活用し、町の活性化を図る具体的な考えをお聞きしたい。

町長答弁
発電所の運転開始後は多くの研修生や、視察者が見込まれる。宿泊、飲食、お土産等の経済効果が期待できる。

又、会社と連携しながら、専門的知識や、技術を子供たちに実感してもらい、世界初の発電所で働く人材を生み出せば。

再質問
新庁舎のリース料、防災無線事業の一部負担では町の活性化につながらない。国、県の

補助金、原発立地地域対策交付金等の合計4億7百12万円余の活用は、町民サービスに繋がっていないのでは。

発電所の固定資産税の収入の見通しがつかないならば、性急に新規の財政政策を考えるべきと思うが。

町長答弁
交付金を活用しながら事業を展開している。施設の維持、学力の向上、学校施設の改修、保育園の運営の事業が地域住民に還元されていくものと認識しているが、財政状況を考えながら検討を重ね推進していきたい。

地球温暖化等で生態系が大きく変化し、海藻類の水揚げの変動が大きくなった。対策として雑草駆除、コンブの増殖、アワビ、ナマコの種苗放流等、水産振興事業を継続しながら安定した漁業経営が出来るようにしたい。

質問
漁業などの地場産業や、観光振興について具体的な考えをお聞きしたい。

町長答弁

地球温暖化等で生態系が大きく変化し、海藻類の水揚げの変動が大きくなった。対策として雑草駆除、コンブの増殖、アワビ、ナマコの種苗放流等、水産振興事業を継続しながら安定した漁業経営が出来るようにしたい。

再質問
小規模ではあるが隣村でコンブの養殖がおこなわれている。当地域での可能性は。

町長答弁

弁天島を中心に上(かみ)、下(しも)の水温の違い、ウニ、昆布の漁場が大半を占める現状と潮流の速さ等を考えると養殖の漁場を確保することが難しいが、考えてみたい。

質問
地域おこし協力隊の採用とか、企業支援を受けながら漁業、畜産での6次産業化を進めては。

町長答弁

生産性の問題で市場の確保が難しい。又、陸マガゴのブランド化、子牛生産農家の拡大を図り、安定供給に努めながら「オコッペいもっこ」の消費拡大をはかって行きたい。

再質問

陸マガゴをブランド化するには安定供給する頭数が必要だ。育成体制を充実させるため飼育員の増員を考えるべきだし、「オコッペいもっこ」の減産も目立つ。生産農家の高齢化と、鳥獣被害で生産意欲がさがれていると聞くが、サル、クマの監視及び捕獲体制が万全ではない。クマ対策として、補助金を交付

してハンターの育成を考えてみたら。

町長答弁

大間牛の拡大の政策については今後の課題としたい。販路については年間提供の仕組みが出来てきたので、販売店舗の拡大を進めていきたい。「オコッペいもっこ」については原種保存に努めながら農家の若返り、後継者の育成に努めたい。又、ハンターの育成については研究とした

質問

大間と言えばマガゴだけ、観光客の増加対策として大間温泉を核に牧場、展望台一帯を再開発して観光客並びに町民の楽しめる場所、憩いの場所に出来ないか。公園化するこ

とで管理のための雇用も生まれる。町民のトップとして時代の波を先取りする先見の目

を持ち対応してほしい。

町長答弁

津軽海峡圏、下北ジオパーク関係団体と連携しながらPRに努めているし、外国人観光客の誘致も進めている。

質問

大間、奥戸中学校の統合が平成33年4月を目途に進んでいるが、受け入れ側の進展は。又、統合後の奥戸校舎の使用法として民間委託の給食センターとして活用できないか。

町長答弁

大間中と保護者も含めた説明及び、意見等の徴収を教育委員会も考えている。給食センターについては給食を前向きに検討するよう調査研修を指示しております。

(記)岩泉

町長就任(四期目)にあたり町民へ 約束した公約について問う

一般質問



野崎 信行 議員

問一 ホンダジェット機、大間・折戸誘致について、大間原発事故に対応するため、ホンダジェット機を開発したホンダ子会社、弘前高校出身である社長の前高松エアークラフトカンパニーに相談し、誘致を考慮、促進すべきと思います。

町長答弁 その考えはございません。

問一 ドローン活用でサルの撃退について、野生動物保護管理事務所、東京町田は、明光電子、横浜市と共同でサルの被害を防ぐため、サルの群れの位置を全地域測位システムGPSで把握し、上空から威嚇するシステムを開発した。

町長答弁 注目してまいりたいというふうには思います。

問二 大間高校にドローンパイロット科を設置について、全国でドローンパイロットの育成を盛んである。大間高校にもドローンパイロット科を設置すべきである。

町長答弁 県に働きかけるということも現時点では考えはございません。

問四 「国土強靱化計画書」について、むつ市では計画書を既に

国へ提出している。大間町では国への提出は完了したのか。

町長答弁 今後の推移を見守りたいと存じます。

問五 「奥戸パイパス」の予算について、地元住民の悲願である奥戸パイパスの建設。30年の期間が経過したが、完成をまだみていない。予算など超過を町長は住民に説明すべきと考えるが。

町長答弁 引き続き要望をまいります。

問六 「下北広域避難道・大間パイパス」について、6年前、大間町から風間浦村までのパイパスを要望しました。現在までの進捗状況・予算がついたのか住民に説明すべきと考えるが。

町長答弁 早期実現を目指し、鋭意努力しているところでございます。

問七 「町営住宅」建設について。

町長答弁 木造で建設いたします。一周道路は袋

小路となっており、行き止まりの現状にある。材木から赤石海岸までの道路を建設すべきである。

町長答弁 中山間事業で整備を進めているところであります。

問九 「北通り広域事業」として「バイオマス発電所」を誘致すべきである。北通り地区から「間伐材」を活用、家の解体材も使用する。

町長答弁 町としてはその考えはございません。

問十 佐井村・風間浦村でも開催しているナイター議会。仕事を終わった人が多数参加しているので大間町でも開催すべきである。

町長答弁 私からの答弁は適当でないと考えます。

問十一 「一人暮らし」見守りパトロールについて、佐川急便・郵便局・タクシー会社と協定を締結し見守りを行っている自治体が多い、大間町では実施しないのか。

町長答弁 実施しておりません。

問十一 「大間崎」の「浜の駅認定」を申請し大型駐車場の整備をし観光客の利便を図るべきと考えるが。

町長答弁 今後の課題とする。

問十二 国では29年8月23日に地元にある「文化財活用」に向けた基本計画を作成すれば国が支援するとして、大間町も策定すべきである。

町長答弁 その具体的な内容については、まだまだ示されていない部分がございます。

問十四 「大間牧場」の活用について階上町ではラム肉で町おこしをしている。大間町も牛だけではなく羊、ダチョウとか飼育すべきである。委託も考え土地の貸与も考えるべきである。

町長答弁 現時点ではその考えはございません。

問十五 新農業振興地域解除について、未だに農業振興地域の解

除の図面が出来ていない。

町長答弁 年度内を目標に鋭意努力しているところでございます。

問十六 西目屋村では移住促進のため土地ゼロ円、保育園費ゼロ円など積極的施策を実施している。大間町では考えないのか。

町長答弁 西目屋村の取り組みは大いに参考としてまいりたいと思います。

問十七 大間町でも生殖する「あかもく」が健康食品として脚光を浴びている。六次産業化し活用できないか。

町長答弁 現在その考えはございません。

問十八 「原発プイ付近」に洋上風力発電所建設について、大間町にも絶好の風が吹く、建設を考えませんか。

町長答弁 町が許可等をするという状況ではないというふうに思います。

28の質問の中から18を掲載いたしました。
(記)野崎

報告

平成29年度町村議会広報研修会



平成29年9月28日に、東京都千代田区シエーンバツハ・サポーに於いて、町村議会広報研修会が開催されました。

大間議会広報委員会からは、竹内弘、佐々木信彦2名が参加しました。

町民が読みやすい広報、親しまれる広報づくりをめざして、広報委員の技術の向上を目的とし、毎年参加しています。

今回の講師は

ことのは本舗
代表取締役

小田 順子氏
広報アナリスト

吉村 潔氏
議会広報サポーター

吉野 政明氏

テーマ

第1部

「議会広報紙の文章
『伝える広報』から
『伝わる広報』へ」

小田 順子氏

第2部

「議会広報
広報紙×電子広報
なにがどう変わって
きたのか!」

吉村 潔氏

第3部

「第31回議会広報
コンクール
トップ2 クリニック
優秀賞受賞紙から
学ぶ」

吉野 政明氏

と題して講演がありました。

研修内容

○見やすい文書の
作り方

○読みやすい文の
書き方

○わかりやすい
文章の書き方

○読んでもらえない
記事の例

○伝わる広報文の
作成手順

議会広報コンクールの
審査ポイントなどの
講習を受けました。

今回、講習を受けて
いろいろ勉強になり、
これからの議会広報に
生かしていきたいと思
います。

(記) 佐々木

編集後記

「マグロ」「ブリ」漁の最盛期を迎えた。昨年の不漁を思い出し心配していたが、今年は違うようだ「マグロ」は一日に60本も捕れた日もあったし、「ブリ」も丸々と太った大物を一晩で400kg〜500kgも釣ってきた船もあるという。又、「昆布」の本場北海道が不漁で、大間産昆布が驚くような高値で取引された。漁業者の頬が緩む顔と、活気のある浜は続いてほしいものだ。

(記) 竹内弘

議会広報編集委員

委員長

加藤 正喜

副委員長

佐々木 信彦

委員

竹内 勝雄

千代谷 誠

竹内 弘

宮野 昭一